

8/22  
八地申  
第2号

## 社員とお客さまの命を守る為、青梅線青梅～奥多摩間の労働環境及び沿線環境整備を求める申し入れ提出！

2022年7月12日、大雨により青梅線宮ノ平～日向和田間で倒竹が発生し、宮ノ平駅停車中の2111デに140分以上の遅れが生じました。7月6日にも同箇所でも同事象があり、早朝から90分以上の遅れが発生しています。

立川運転区では担当線区の為、安全衛生委員会で青梅～奥多摩間の環境整備と事象について審議をしてきました。しかし、「速やかに報告してください」という対策にならない回答に終始し、社員の生命を預かる現場管理が無責任体質だと指摘せざるを得ません。過去には走行中の列車正面に倒木が衝突する等、乗務員の命を脅かす事象が発生しています。

また、青梅～奥多摩間では鹿を始めとした動物が営業列車と衝撃する遅れも多発しています。特に衝撃した際は運転再開までに多くの時分を要するだけでなく、足場の悪い線路に降り、状況がわからないまま動物の撤去等に当ることからも非常に不安全で不衛生な状況に晒されています。このことから動物を鉄道敷地内に入れさせない対策と対応に当る社員の安全・衛生確保に向けた教育を含めて対策が必要な事からも下記の通り申し入れますので、会社の真摯な回答を要請します。

1. 7月6日及び7月12日に青梅線宮ノ平～日向和田間で発生した倒竹に伴う輸送障害に対する会社見解を示すこと。また、輸送障害の発生原因及び再発防止に向けた対策を明らかにすること。
2. 社員とお客さまの命を守るために、青梅線青梅～奥多摩間の安全・安定輸送の確保に向けた沿線の草木等の定期的な伐採と乗務員等からの申告に迅速に対応できる体制を構築すること。
3. 青梅線青梅～奥多摩間で発生している動物との衝撃による輸送障害の発生件数と、鉄道敷地内へ動物を進入させない為の具体的な対策を示すこと。
4. 社員の命を守るために、青梅線青梅～奥多摩間の動物と衝撃した際に乗務員が行うべき対応と、これまで対応にあたる社員の安全・衛生の確保に向けて実施してきた教育を明らかにすること
5. 動物と衝撃した際の対応については、安全・衛生の観点から足場や動物の状態を含め、乗務員の判断を最優先とし、すぐに乗務員が線路に降車して状況確認をするのではなく、後続または対向列車での状況確認を行うなどの対策を講じること。

**安全安定輸送と乗務員が安全に作業できる沿線環境を求めます！**